



研究・教育の「引き出し」を充実させるJSAの活動

茨城支部・茨城大学／歴史学（日本近現代史） 佐々木啓

誘われるままに JSA に入会したのは、大学院博士後期課程の頃でした。最初は理系中心の学会というイメージがあったのですが、支部の幹事会や種々のイベントで色々な人の話を聞くうちに、狭い専門分野に捉われず、学問や大学、研究者のあり方について、真剣に考えている人たちの集まりであると分かりました。あらゆるところで権力への「忖度」が求められる時代に、あえてその真逆を行く、志の高い学会だなと思っています。

JSA の活動を通して出会った同世代の友人たちとは、ずいぶんと濃い関係を築いてきました。合宿やフィールドワーク、研究会などに参加し、真剣に討論したりしてきたことは、自分の研究・教育の「引き出し」を充実させるのに役立ってきました。私は歴史学（日本近現代史）を専攻していますが、JSA で知った他分野の着想を自分の研究に取り入れることがしばしばあります。多分野の研究者が一緒にいるからこそその利点だなと思います。

社会問題に積極的に取り組んでいるメンバーが多いのも JSA の特徴です。日常生活のなかで理不尽なことに対して立ち向かうのは勇気があることで、長いものに巻かれているほうを選びたくなるものですが、学問や教育、あるいは市民運動などの領域で、JSA で出会った仲間たちが頑張っている姿を見ると、自分も頑張ろうという気持ちになります。

多くの方々がこの“熱い”学会に参加し、ともに日本の学問を前進させる輪に加わっていただけることを願っています。